
ヒーローは来ない、なら俺がなれば良い！！

KMRKTG

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ヒーローは来ない、なら俺がなれば良い！！

【Nコード】

N8073X

【作者名】

KMRKTG

【あらすじ】

浪城遼平は、空想の中のヒーローを忘れ、学生生活を送っていた。そんな遼平が出会ったのは、影の怪物から生徒や市民を守る空想部だった！！

がんばって書きます。

評価、アドバイス等ありましたら、どうぞお願いします。

土日不定期掲載です。

EP000 - 始まりの始まり

「6年間」それが俺が自分だけの空想ヒールのことを考えなくなってから今日までの、時間。

先にプロフィールを言っておくとする、名前は浪城遼平なみしろりょうへい、誕生日は7月7日蟹座

血液型はB型、高校2年生16歳。

見た目は…これと言って髪の毛の色がオレンジだとか、左目が義父に呪われていて模様がある、なんてことはない。普通の高校生、両親も日本人、兄弟はいない、髪も目も少し長めというか普通の黒、体型も普通に筋肉はついている、身長は180くらい、体重は量っていないから知らん。

成績は良いほうで約250人中の32位、通ってる高校は中の上。それが俺、浪城遼平のプロフィールだ。

気になっている人もいると思うから、というかそれが本題なんだが俺が空想をやめたのは10歳の頃。

それまで俺は友達が少なく、一人ぼっちだった。いや、一人ということは無いかもしれないけれどあまり友達と遊んだ記憶がない。だから俺は自分だけのヒーローを創ったんだ。

名前は「ライオン・ブレイブ」ダサイとか言うなよ、あの伝説のSeedだつて最強武器はライオンハートだったろ？ 兎にも角にもこれが俺の、俺だけのヒーロー。

太陽の力をつかさどる鎧を身に纏った俺のピンチに来てくれるヒーロー、そういう「設定」技とかもあつたんだが忘れちゃった。

そんなことをいつも考えていた、だけどそんなことを考えて、そんなことしか考えないでいたら、俺は周りを見なくなつた。

もともと一人だったが、もっと一人になった。一人にさらに上があるなんて知らなかったよ、俺は。

ただ10歳になってから1ヶ月たたないころ、8月が始まったばかりの頃、俺の家に電話がかかってきた、それはクラスメイトの男子、内容は「皆で遊ぼう」驚いたけど、嬉しかった。

それから毎日毎日遊んで、遊んで、遊びまくった。皆で最後の1週間宿題したり、楽しかった。

だから俺は、あいつを、あんなに大切だったヒーローを忘れた。

そして俺は普通に中学へ行き、そして卒業。高校へ入学、進級して今6月の28日まで過ごしてきた。

それが今日までの俺の、人生って言うのも恥ずかしいほどつまらない人生。

そしてこれからも俺は普通に生活して、卒業して、大学へ行って、また卒業して、働く。

そういう人生なんだと思っていた。

あいつらと、会うまでは・・・

EP000 - 始まりの始まり (後書き)

どうでしたでしょうか？まだぼくは学生なので、あまり頻繁に更新はできませんが、がんばりますのでよろしくお願いします。

E P O O 1 - 始まりの前の出会い

「……… 忘れた………」

俺はいつも通りに学校へ行き、そして帰ろうとしていたのだが、帰る直前先生に仕事を頼まれ、3階建ての校舎の3階に行つて、頼まれたものをとつてきて先生に渡して、帰ろうとしたのだが、ふと教室の机の中に筆箱を忘れた事に気付き、取りに戻ることにした。別に持つて帰らなくて良いのだが、そんな遠い距離ではないので取りに戻ることにした。

この判断はその5分後には後悔へ、そのさらに15分後には別の感情へと変わることになった。

難なく教室までつき筆箱を取った俺は、帰ろうと後ろを向いた。

だがそこにいるのは明らかな異形、真っ黒い犬、それもただの犬じゃなく3つ首のケルベロス。

立てば俺と同じくらいの大きさ、直後、とてつもない恐怖が俺を襲った。

あの犬が何なのかもわからぬまま俺は教室を飛び出し、廊下を全力で駆け出した。

時刻は午後6時ぐらいだったと思う。

とにかく走つて走つて走りまくつた。… ああ！！追いかけてくるのが分かる！！怖い怖いマジで恐怖！！

そして俺は耐え切れなくなり、耐えるのが嫌になり、思わず、一瞬だけ、振り向いた。

目の前は黒、3つ首が口を開き俺に向かう、普通に動いたら何発でも攻撃できそうなほどゆっくりに見えた。ほらな、やっぱり後悔しただろ？

そしてその犬は、俺に跳びかかるうとした形で上下に真っ二つに引

き裂かれた

「……………え?…」

思わず漏れた、驚愕の言葉だった…

ケルベロスは床に落ちまるで灰にでもなったかのように崩れていく。

「君!大丈夫か!?!」

突然聞こえる声、それも女、思わずそちらを向く。

そこにいたのは黒髪ロングの女子、…知っている、俺はこいつを知っている。

クラスメイトだ、名前は確か…

「大丈夫か、と聞いているんだ!!」

その怒鳴り声とともにそいつは俺の頭を一撃、

「いつてえな!!ぶつ事ねえ…だ…ろ…?」

思わず言葉が途切れる。こいつはてつきり拳骨が何かを食らわせたと思っていた。

ちがった、こいつ持っている巨大な鎌の柄で殴りやがったんだ…

「何だよ…それ…!」

思わず尋ねてしまう。だってそうだろ?ケルベロスに食われるかと思ったらケルベロスが真つ二つ、

そしていきなり隣には鎌を持ったクラスメイト…

「とことん質問に答えない奴だな君は、見れば分かるだろうこれは鎌だ」

これは鎌だつて言われても、何で鎌を持っているかが知りたいんだが…

「鎌だ、じゃねえよ!何でそんな銃刀法違反にけんか売るだけじゃなく、つば吐きかけて蹴り飛ばすようなものがこの学校の中にあるんだよ!そしてそれをなぜお前が持っている櫻井椿!」

そう、こいつがクラスメイト、俺に1学期始まってすぐ話しかけてきた奴、そして俺の家の隣に住んでいる奴。

「…名前、覚えてくれていたんだな。少し嬉しいぞ、えっと…浪城

君」

2年生になって真っ先に話したであろう奴の名前を忘れる奴が俺の
人生を変えることになっていくとは、
お約束なのだが俺はまだ知らない・・・

EP001 - 始まりの前の出会い (後書き)

どうでしょうか、まだ話の本筋は見えないのですがここが分かりにくく、

ペースが気持ち悪いなどあったらビシビシお願いします!!

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8073x/>

ヒーローは来ない、なら俺がなれば良い！！

2011年10月22日04時16分発行